

1 学期始業式

4月7日（水）に1学期の始業式を行いました。

校長式辞では、令和3年度は新一年生76名を迎え、全校生251名でスタートすること。1年次生が2クラスになるので、全校のクラス数は合計で8クラスとなることが伝えられたあと、以下のことが伝えられました。



1 感染防止対策の徹底

昨年度と同様に、WITH コロナの状況でコロナの影響を受けながらではありますが、皆さんと共に元気に楽しい1年を送りたいと思っています。

しかし、知ってのとおり、山形県は山形市、寒河江市の両市に対して〔注意・警戒レベル〕を5に引き上げ、独自の緊急事態宣言が出されています。このような感染拡大に伴い、3月20日から4月2日までの2週間で、高校生が何名コロナウイルスに感染したでしょうか。

その数は、17名です。学校内でコロナ感染症に罹患する人がいつ現れてもおかしくない状況になっています。

コロナの問題で、心配なことの一つに、後遺症が残る確率の高さがあります。東京都の今年1月時点での数値ですが、10台～30歳台までの若い層の感染者が全体の半数近くであること。中でも80%前後の人に後遺症が残っており嗅覚障害、味覚障害、倦怠感などが報告されています。しかも4人に1人が脱毛症に襲われているということがNHKのクローズアップ現代で示されていました。

現在、山形県は10万人あたりの感染者数が全国4番目の高さとなっており、これは東京都の割合より高い数値になっています。おそらく、学校が始まり、電車通勤、通学を含め、人の行き来が活発になるので置賜地区の感染者数も増えてくると考えなくてはなりません。通学の間も、マスクをしっかりと着用して、おしゃべりはしない、学校にきたらすぐに手指の消毒をする。昼ごはんを食べる際には、集まらないで前を向いて一人一人食べるようにしてください。ちょっとでも油断するとあっという間に感染が広がる可能性が、いまそこまで来ているという自覚をもって生活するようにお願いします。

勿論、感染症は、インフルエンザなどと同じように、誰でもがかかってしまうものなので、感染したからといって、その人を責めるようなことは絶対にしない

てください。感染しないために、できることをしっかりやってほしいというお願いです。

2 「初心」とは…

さて、昨年度の修了式で、目標が定まらないときや、やる気が出ない時などには図書館、本屋さんを利用する、行ってみることを勧めました。どうでしょう、今年度新たな年次を迎えて、目標は定まっているでしょうか。

およそ600年前に能楽を大成させた人として有名な世阿弥（ぜあみ）という人がいました。彼は『花鏡』という書物の中で、「初心、忘るべからず」という言葉を残しました。これを私たちは、「慣れると、つい慢心してしまう。最初の志を忘れてはならない」という教訓であると理解しています。しかし、彼が言う本当の「初心、忘るべからず」という言葉は、もう少し幅広い意味であります。初心には、若いころの初心、人生その時々々の初心、老いてからの初心があり、どんなに上達しても自分の力に満足せず、常に自分をさらにその先へ向かわせる志が大切であるという教訓を意味する言葉だそうです。

「初心」の「初」という漢字は「衣へん」と「刀」でできています。「初心に帰る」とは、これまで着ていた衣を刀で絶ち、新たな衣を作り出すという意味であるのだそうです。着心地のよい慣れ親しんだ衣を絶ち、初めからつくることには大きな抵抗があることと思いますが、それを敢えて実行することが「初心、忘るべからず」なのです。

この言葉にあやかり、新たな年度を迎えるこの4月に、もう一度自分の目標を確認し、これまでの自分を脱却し、さらに大きな自分を作る年にしてほしいと願います。

以上をもって、令和3年度第1学期の式辞とします。